創設から48年。先輩たちから受け継いだ音色を、さらに未来へ。

金城学院にハープアンサンブル部が創設されたのは1975年のこと。
中学校に1台のハープが贈呈されて以来、紡いできた歴史と伝統に
新たな息吹を吹き込みながら、演奏活動を続ける部員たち。
近年は世界的なハープ奏者と同じステージに立つなど、活動の場を広げています。

金城学院高等学校ハープアンサンブル部は1978年、宣教師M.I.ケリー先生・川口鐘一先生・河合栄治先生・ハーピストの岡島多恵子先生により創設されました。ハープは神を讃える楽器のひとつで、ハープの美しい響きは、神への感謝と喜びを表すもの。その精神は今も部員たちの心の中に自然に引き継がれています。現在、部員は23名。所有しているハープは、ペダルハープ（グランドハープ）、レバーハープ（ケルトハープ）、ミニハープ（ベイビーハープ）の3種類。ハープだけの部活は珍しく、高等学校においては全国でも数校しかありません。2014年度からは、卒業生でハープ奏者の三宅百合子先生をコーチとして迎え、熱心な指導のもとで練習に励んでいます。

主な活動としては、学内では新入生歓迎会や文化祭、クリスマス礼拝などで演奏するほか、学外では、教会や病院、老人ホーム、東区のまちづくりサポーターとして「歩こう！文化のみち」で演奏し、喜んでいただいています。また、近年は中学と高校が合同で世界的なハープ奏者によるハープ・ワークショップを開催したり、コンサートに賛助出演するなど、活動の場を広げています。部の創設から今年で48周年。アンサンブルとして、皆で心を合わせて演奏し、先輩たちから受け継いだ音色を、これからも大切につないでいきます。

和気あいあい、練習に励む生徒たち。

三宅百合子コーチ（左）と、水野あさみ先生（右）。水野先生は顧問として、生徒たちを見守り支えています。

2022 11/7(Mon.)

アレクサンダー・ボルダチョフ氏による ハープ・ワークショップを開催。

ロシア出身の世界的ハープ奏者で、世界各地で演奏活動を続けるアレクサンダー・ボルダチョフさんが本校を訪れ、中・高の部員たちを前にミニコンサートを開催。その後、ワークショップが開かれ、部員一人ひとりに弦のはじき方などを指導してくださいました。ミニコンサートでは、ボルダチョフさんはショパンの「ワルツ」やビートルズの「イエスタデイ」など6曲を披露。中・高の部員も、チャイコフスキー「くるみ割り人形」より「花のワルツ」などを演奏しました。ボルダチョフさんは2023年11月にも来日し、全校生対象のハープコンサートと、部員対象のハープ・ワークショップを開催します。

菊地恵子先生（中央）を囲んで

2023 3/12 (Sun.)

東京・内幸町ホール文化祭にて 菊地恵子先生のコンサートに賛助出演。

東京の内幸町ホールで開催された文化祭『アイリッシュハープの響き』で行われた菊地恵子先生（ケルトハープ音楽の研究者・演奏家）のコンサートに中・高の部員が賛助出演。レバーハープ12台、ミニハープ8台でアイルランド民謡の数々を演奏し、好評を博しました。

2023 8/4 (Fri.)

金城学院中学校・高等学校管弦楽部 定期演奏会に出演。

しらかわホールで開催された金城学院中学校・高等学校の管弦楽部の定期演奏会に高2の部員が出演。ビゼー作曲「カルメン」組曲第1番をオリジナルの編成で演奏しました。

2023 8/18 (Fri.)

マイケル・ルーニー氏が率いる ミュージックジェネレーションの 演奏会に賛助出演。

名古屋西文化小劇場で開催された『マイケル・ルーニー、ジューン・マッコーマック＆ミュージックジェネレーション・リーシュ・ハープアンサンブル日本ツアー2023』の名古屋公演に、中・高の部員が賛助出演しました。マイケル・ルーニーさんは、英国王室での演奏・作曲を経験しているアイリッシュハープの巨匠で、ジューン・マッコーマックさんはアイリッシュフルートの世界的奏者。演奏会では、日本とアイルランドの伝統曲でコラボレーションするなど、音楽を通して、アイルランドと日本の文化交流を深めることができました。

2023 8/19 (Sat.)

演奏会翌日には学生アンサンブルの メンバーと交流会も。

演奏会の翌日には、名古屋市内のノリタケの森にて、アイルランド国立音楽教育プログラム「ミュージックジェネレーション」に所属する学生アンサンブルのメンバーと交流会を開催。学生同士がそれぞれの国の音楽文化や演奏活動を紹介しあったり、プレゼント交換をするなど、心を通わせるひと時をもちました。

加藤由理さん
ハープ
アンサンブル部
部長／3年生

堀田莉々子さん
ハープ
アンサンブル部
副部長／3年生

人の心に届く演奏が できた喜び。

入部のきっかけは、金城学院中学の学校説明会で、先輩方がハープを優しく教えてくれて素敵だなと思ったこと。ハープに憧れ、ハープを弾くために金城に入学したといっても過言ではありません（笑）。中1から6年間、ハープを続けて一番心に残っているのは、教会で演奏奉仕をしたときのこと。演奏を聴きながら涙を流している方がいて、すごく感動しました。ハープに出会い、心豊かな高校生活が送れたことに感謝しています（加藤さん）。

ハープを通じて、 世界が広がりました。

アンサンブルの魅力は、高音の優しい音色や低音の迫力ある音が重なりあって生まれるハーモニーの美しさ。自分で演奏していても、すごく感動します。海外の演奏家たちと一緒に演奏する機会を持てたのも、ハープが好きで、ずっと続けてきたから。海外の人の音の感じ方やリズムの取り方が私たちと違うし、言葉の壁も大きかったのですが、この体験をしたからこそ、もっと英語を勉強し、内面も磨きたいと思うようになりました（堀田さん）。